

蛇の話（五話） = = = 三州横山話より

ツト蛇

ツトッコとも、槌蛇とも言います。ツトのような格好だとも、また槌の形をしているとも、槌のように短いのだとも言います。蛇の頸ばかりになったのが、死なないでいて、それに短い尾のようなものが生えるのだとも言います。山や、沢などにおいて、非常な毒を持ったもので、これに咬まれると命はないなどと言います。私の母の幼な友だちは、この蛇に咬まれて一日ほど患って死んだと聞きましたが、それは沢にいたのだと言いました。東郷村出沢の鈴木戸作という木挽きの話でしたが、鳳来寺村門谷〔現、鳳来町〕から、東門谷というところへ行く道で、某という男が見たのは、藁を打つ槌ほどの大きさで、丈が二尺ほどのものであったと言います。道の傍の山を、転がっていたと言いました。

沢などにいるのは、蛇ではなく、鰻の頭ばかりなのになったのだと言う人もありました。

人の血を吸う蛇

青大将は、人家の天井において、病人などの血を吸うと言います。そうした時は、病人の体から、見えるともなく糸のようなものがずるずると天井に昇って行くなどと言います。

鳳来寺字長良のある家の隠居が、久しく患っていて格別どこが悪いというのでもなく、毎日炬燵にばかりはいついて、だんだん衰弱して行くので、家の中が陰気でならないからと、春の彼岸に家の大掃除をやり、九重の守りというものは霊験があるという噂を聞いて、近くの村にあるのを借りて来て祀っていて、それから一ヶ月ほどたってから、何となく炬燵の中が気味が悪いから一度調べてくれ、老人が再三訴えて聞かないので、炬燵の櫓を取り除けて見ると、なかに青大将の三尺ほどもあるものが、二つ丸くなっていたということでした。大掃除をしたときにはさらにそんなものの姿は見かけなかったと言って不思議がっていました。蛇は、二つとも裏口の方へ逃げてしまったそうですが、病人は、それからめきめき全快したそうです。

女を追う蛇

女が石垣の上から小便をすると、蛇が陰部へ入るなどと言います。昔、あるところで、女が石垣の上から小便をして、そこを歩き過ぎようとする、石垣

の間から蛇が頸を出して追うので、通ることが出来ずにいると、そこへ一人の武士が通りかかって、石垣の蛇のいる穴の上に刀を十字に擬して女を通してやると、蛇が四つに裂けながら、女の後を追って行ったという話もあります。

蟻に化した蛇

ところは忘れましたが、ある家でツバメの巣へ蛇が来ては、卵をとって仕方がないので、その蛇を殺して、土中に埋めました。ところが、それから蛇は少しも来なくなりましたが、その代わりに、ツバメが少しも育たないので、不審に思って巣を檢視すると、たくさんの蟻が来て、ツバメの子をみんな食い殺してしまいましたので、だんだんその蟻の来る道を辿って行って見ると、前に蛇を殺して埋めた場所へ行っているの、そこを掘り返してみたら、蛇の体が蟻になっていたなどという話がありました。

砂を吐く蛇

これも母から聞いた話ですが、あるところで、蛇が鶏の巣に来て、卵を呑んで仕方がないので、その家の若者が、卵の殻に砂を詰めて鶏の巣におくと、蛇がそれを知らずに呑んでしまったと言います。その後蛇が背戸口に出て、その砂を吐き出しておいて行ったのを、若者が知らずに踏みつけると、その日から足が痛み出して、どんなに療治しても治らず、しまいにはビッコになったと言います。八名郡の宇里というところにもこうした話があったことを聞きました。